

WE LOVE

# ちいき

地域医療の橋わたし



● 活動報告・セミナー報告

● リレートーク第53回『奥出雲で生き、奥出雲で創る  
地域医療の未来』

町立奥出雲病院 院長 鈴木 賢二 先生 消化器外科 内田 有紀 先生

島根大学医学部  
地域医療支援学講座

# 活動報告

2025.11-2026.3

ACTIVITY REPORT

令和7年11月13日(木)

## ドクターキャリア形成特別講義

【場 所】島根大学医学部 臨床講義棟2F 臨床大講堂  
【参加者】島根大学医学部 医学科 4年生  
【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座  
島根県医師会



午前の部では蓮沼直子先生を迎え、医師として働く夫婦が直面しやすいトラブルケースを題材にグループワークを行った。急な子どもの発熱対応や単身での留学といったテーマに取り組み、ワークライフバランスを考える機会となった。

午後の部からは院内より3名の医師をロールモデルとして招き、キャリアや経験に基づく助言が学生に伝えられた。

医師会特別講演では、島根医科大学卒業生の間宮敬子先生より、「信州大学の緩和ケアと地域連携の取り組み」について講演が行われた。海外留学の経験や緩和ケアの魅力が伝えられ、学生にとって学びが多い内容となった。

学生からは「キャリアについて考える機会となり良かった」と感想が寄せられた。本プログラムは医学生が将来のキャリアを考える機会となり、今後も継続実施していきたい。

令和7年11月14日(金)

## 令和7年度 地域枠等全学年会

【場 所】出雲ロイヤルホテル  
「高砂の間」  
【参加者】51名(学生 34名)

地域枠等の全学年会が、学生および学内外の関係者が一堂に会して開催された。6年生が実行委員長を務め、国家試験勉強の合間を縫って準備が進められ開催に至った。当日は6年生有志が、学生・来賓者を温かくお迎えした。

はじめに、田邊一明副院長より地域医療への期待を込めた激励の挨拶があり、その後、島根県健康福祉部の周山幸弘部長による乾杯のご発声により会が開始された。続いて学生の自己紹介が行われ、和やかな雰囲気の中で会は進行した。各テーブルでは、学生と来賓との交流が活発に行われた。

本会では、縦横のつながりを再確認するとともに、将来地域医療を担う仲間としての意識を高める有意義な機会となった。



令和7年11月26日(水)

## 地域医療体験実習Ⅱ (フレキシブル実習) 報告会

【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟2階  
共通カンファレンス室1  
【参加者】1年生 5名 2年生 8名 3年生 9名 6年生 2名

令和7年8月～11月までの期間に実施された地域医療体験実習Ⅱには、延べ24名の学生が参加した。実施にあたっては、浜田医療センター、波佐診療所、済生会江津総合病院、隠岐病院の医療機関に学生を受け入れていただいた。

報告会では、実習場所の代表9名が地域医療における医療提供体制や医師不足といった構造的課題、ならびに地域特性に応じた医療の工夫に対する理解を報告した。更に、今後の学習への動機づけ、将来の進路選択に関する意識の変化についても発表があった。

学生は地域医療の現場で、診療の工夫や多職種連携の重要性、地域住民の生活背景を踏まえた医療の在り方について、講義や学内実習では得難い実践的な学びを得ることができた。



令和7年12月13日(土)

## 令和7年度 第2回高校生対象 しまねの地域医療セミナー

【場 所】島根大学医学部  
臨床講義棟2F  
臨床大講堂  
【参加者】高校生 9名  
保護者 4名



セミナーは、大学入学共通テストを控えた時期に開催したが、高校1・2年生とその保護者が参加し、地域医療入試制度への関心の高さがうかがえた。

はじめに、佐野教授より地域枠制度の概要について説明が行われた。続いて、島根県健康福祉部医療政策課より、地域枠学生を対象とした奨学金制度について説明があった。

地域医療の現場で活躍する村上航太郎先生から、医師国家試験問題を取り入れた参加型講演が行われた。さらに、現役医学生2名から大学生活を紹介し、入学後の生活をイメージできる機会となった。

終了後のアンケートでは満足度が高く、開催時期も適切との意見が多数寄せられ、本セミナーの有効性が確認された。今後も、島根県における医療人材育成を目的として継続的に実施していく。

令和7年12月23日(火)

## 第2回えんネット交流会

【場 所】島根大学医学部  
附属病院 みらい棟2階  
共通カンファレンス室1  
【参加者】6名  
(医師 2名 研修医 1名  
学生 3名)



クリスマス会を兼ねた交流会を開催した。当日は飛び込み参加もあり、1年生から研修医まで幅広い層が集い、終始和やかな雰囲気で行われた。参加者は学生生活の様子や研修の現状について、それぞれの立場から率直に意見を交わした。

特に研修病院に関する話題では、まだ具体的なイメージを持っていない医学生に対し、研修医が「医療現場のリアルな声」を伝えていた。

その経験談を通して、学生たちは自身の将来像をより具体的に思い描くことができたようであった。

また、生活面や経済面についても話題が広がり、奨学金制度などに関する情報提供の機会ともなった。

「えんネット交流会」は、医師と学生が悩みや現状をのんびりと気軽に語り合える場であり、今後もこうした温かなつながりを大切にしながら活動を続けていきたい。

令和8年3月6日(金)

## 地域医療体験実習Ⅰ(春季地域医療実習) & 報告会(オンライン)

【参加者】24名(学生 14名)  
島根大学 13名  
鳥取大学 1名

島根県の6圏域にある保健所で、関係機関の理解と協力で実習が実施された。保健所長からは医療・介護連携や地域の課題について説明を受け、実習施設では地域医療の役割を学んだ。病院や診療所では外来診療の見学に加え、訪問診療や訪問看護に同行し、多職種連携や住民の生活に触れる機会を得た。

6日の報告会では各グループに分かれ、「想像と違ったこと」「地域医療で大変だと感じたこと」「地域医療を良くするために医学生にできること」について議論した。医学生として、SNSでセミナーやイベントを発信したり、友人を誘って実習に参加してもらうことで、地域への関心を広げられるのではないかという意見が出ていた。

この実習を通して地域医療の問題と課題を考える有意義な学びの機会となった。



## 学年会

令和8年1月21日(水)

### 2年生学年会

【参加者】9名  
(学生 4名)



令和8年1月28日(水)

### 5年生学年会

【参加者】14名  
(学生 9名)



令和8年1月6~22日

## 地域医療学Ⅱ開始

【日 時】令和8年1月  
6・13・15・20・22日  
【場 所】島根大学医学部  
臨床講義棟2F  
臨床大講堂  
【対 象】医学科2年生(121名)



前半は地域医療学Ⅱのカリキュラムに今年度より「ストーリーテキング」の単元を新たに加え、有終会の会員6名の方にプレゼンターとしてお越しいただいた。

有終会とは、亡くなった後にご自身の体を医学教育・研究に役立てたいと申し出られた方々によって組織された団体である。

学生は6グループに分かれ、有終会の方に1名ずつお入りいただき、ご自身の献体への決意や医師となる医学生に対する思い、医学の発展のためにささげられる崇高な信念の源を語っていただいた。

学生達は、人生の最終段階までを見据えたその人の覚悟ある選択に「大きな衝撃を受けた」と感想を述べ、信頼と期待に応える医師を目指す決意を新たにされたようであった。

後半はプレホスピタルの講義とBLS演習を行った。

令和8年1月31日(土)

## 令和7年度 第5回しまね総合診療の集い (ブラッシュアップセミナー)

テーマ:「シン・地域医療と公衆衛生  
—地域医療と公衆衛生の再接近—」

【場 所】島根大学医学部附属病院  
みらい棟4階 ギャラクシー  
【講 師】自治医科大学地域医療学センター  
公衆衛生学部門  
教授 阿江 竜介 先生  
【参加者】26名(学生1名)



公衆衛生を「公衆の生命・生活・生きる権利を守る」と捉える視点が示され、保健・医療・福祉・介護はその考え方を具体的に形にするための手段であるという整理が、特に心に残った。

また、日本における保健所の成立から現在までの歩みを振り返り、戦後の社会状況や疾病構造の変化に応じて、公衆衛生の役割や機能がどのように移り変わったのか、具体的な事例を交えて語られた。

参加者からは日々の地域医療を考える中で、公衆衛生的な視点をあらためて意識するきっかけになったといった感想が寄せられた。

令和8年2月7日(土)

## 第16回中四国地域医療フォーラム

テーマ:「地域で働く若手医師のキャリア形成と  
ライフイベントの両立について」

【主 催】山口大学医学部附属病院  
医療人育成センター地域医療  
支援部門/山口県健康福祉部/  
山口県地域医療支援センター  
【参加者】中四国各県の地域医療に関わる  
大学関係者、県行政担当・  
地域医療支援センター職員、  
地域卒業医師・地域枠学生他



フォーラムには、島根大学から教員4名・学生3名が参加した。前日にはプレ集いが開催され、中四国の大学がそれぞれの地域医療の取組や課題について意見交換を行い、共通理解を深める機会となった。

本会では、テーマに沿って各大学・県から支援の取組が報告され、学生も交えて議論が行われた。グループ討論では、キャリア形成と家庭・生活との両立を支える上での大学・行政の役割や、学生との認識の違いについて意見が交わされた。学生からは、将来像を具体的に描くためにも、早期から地域医療の現場に触れたいという声が聞かれ、支援を継続・発展させる重要性を改めて実感した。

令和8年2月28日(土)

## 令和7年度 第6回しまね総合診療の集い

【場 所】島根大学医学部  
附属病院 みらい棟4階  
ギャラクシー  
【参加者】19名(学生5名)



本会は、医学生・研修医・専攻医が総合診療の実践や考え方への理解を深め、将来のキャリアとして具体的にイメージできることを目的に開催された。

第1部では医学生によるポर्टフォリオ検討会を実施し、実習で経験した症例をもとに発表を行った。発表後には指導医や参加者とのディスカッションを通して症例を振り返り、総合診療の視点について意見交換を行うことで学びを深めた。

第2部では「総合診療医、究極の選択!」と題し、隠岐病院の森江祥平先生が症例を提示し、臨床現場での意思決定について全体で議論した。多様な視点や考え方が共有され、総合診療の魅力や実践知への理解が深まるとともに、参加者同士の交流も促進され、学びの多い時間となった。

## 地域交流会



隠岐出身者  
地域枠医師等との  
意見交換会

実施日:令和7年11月13日(木)  
参加者:12名(研修医1名)

雲南市・奥出雲町  
地域医療交流会

実施日:令和7年12月12日(金)  
参加者:32人(学生6人)



益田圏域出身の医師と  
医学生との意見交流会  
(益田・吉賀・津和野合同)

実施日:令和8年1月20日(火)  
参加者:17名(学生3名)

安来市地域医療を  
守る交流会

実施日:令和8年2月14日(土)  
参加者:12名(学生5名)



# SEMINAR REPORT

# セミナー報告

CAREER

## キャリアセミナー ▼



令和7年12月17日(水)

### 基礎医学研究と教育がもたらした キャリアの広がり:私の場合

【講師】島根大学医学部生理学講座(環境生理学)  
教授 岸 博子 先生  
【参加者】16名(学生 9名)

先生が医師の道を志されたのは、親族の影響に加え、医師・研究者の伝記を通して芽生えた知的好奇心が原点にあるそうである。

内科に進んだ後、専門として呼吸器を選択された。臨床ではCOPDの診療に携わる中で呼吸器生理への関心が高まり、気管平滑筋の研究に取り組まれるようになった。学位取得後、アメリカへ留学し米国立衛生研究所でポストドク研究員としてミオシン研究を行われた。日本に帰国後は山口大学で20年以上にわたる在籍期間中、基礎研究と学生教育に力を注ぎ、日本の生理学者とのネットワークを築き、研究の展開へとつなげられた。

医師になった当初は臨床医を続けるつもりであったが、「好きなこと」を追求し続けた結果、自然と道が拓けていったと言われた。医師としてのキャリアは多様で、先生の歩みからは、知的好奇心に従うことの大切さを教示いただいた。



令和8年1月13日(火)

### 耳鼻科医がちょっと海外に行って 学んだこと

【講師】島根大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科  
講師 金井 理絵 先生  
【参加者】32名(学生 19名)

先生は大学卒業後、耳鼻咽喉科に入局し、耳科学を専門に診療・研究に従事されてきた。医師としてのキャリアに大きな影響を与えた経験として、海外留学や国際学会への参加を挙げられた。イタリアへの留学は日本では経験する機会が少ない聴神経腫瘍の手術を数多く見学された。現地手術はダイナミックであり、その経験を通して日本の手術の丁寧さを改めて実感したそうである。病院では多国籍の留学生と充実した研修を行う一方、日常生活では言語や文化の違いに苦労する場面もあった。しかし、「日本の常識は世界の常識ではない」という言葉をきっかけに意識が変化し、異文化を前向きに受け入れられるようになったと語られた。

また、国際学会への参加は新しい知見の獲得だけでなく、大きな刺激やリフレッシュにもなり、まずは挑戦してみることの重要性を強調された。



令和8年2月20日(金)

### 治る脳神経内科と、 治せる脳神経内科医を目指して

【講師】島根大学医学部附属病院 高度脳卒中センター  
助教 有竹 洵 先生  
【参加者】32名(学生 16名)

先生は、かつては天文学者を志されたが、次第に医療の道に強く惹かれ医学部へ進まれた。学生時代は勉学に励む一方、部活動や友人と旅行も楽しみ、幅広い経験を積まれた。初期研修では視野を広げたいとの思いから兵庫県へ赴き、多くの仲間と出会い大きな刺激を受けたそうである。

その後島根に戻り、学生時代の実習で脳神経内科に強い魅力を感じたことや、家族や友人にゆかりがあったことも後押しとなり、脳神経内科に入局された。神経疾患の多い病院での研修中に神経免疫疾患の患者を担当した経験を契機に同分野を専門とし、現在は山陰唯一の神経免疫診療認定医として診療に尽力している。毎年のように新薬が登場する中、患者一人ひとりに最適な治療を模索しながら、「治せる脳神経内科医」の実現を目指し研鑽を重ねておられる。

COMMUNITY MEDICINE

## 地域医療セミナー ▼



令和7年12月15日(月)

### 求められる医療の形に応じて 変化を続ける総合診療

【講師】気仙沼市立病院附属本吉医院  
院長 齊藤 稔哲 先生  
【参加者】28名(学生 17名)

今回先生には、上記のテーマでお話しいただいた。「医療技術が高度化する一方、地域医療の現場では高齢化の進行や複数の疾患を有する患者への包括的かつ継続的な対応が重要な課題」と話された。

講演では自己紹介に続き、総合診療医は大学病院では診断学を担い、地域では保健活動、急性期、慢性期、終末期医療まで幅広く担う医師であると説明された。その後、先生自身の体験例をもとに、地域のニーズに応じて医療の形が変化し続けてきた実践が具体的に紹介された。本セミナーは、医学生・大学院生に対し、地域に根ざした医師として果たすべき役割や視点を示す内容であり、将来の進路や医師像を考える上でも有意義な学びの機会となった。



令和8年1月30日(金)

### 公衆衛生とは何か?を解っているつもりで 本当はよくわからない人が聞くFD

【講師】自治医科大学 地域医療学センター 公衆衛生部門  
教授 阿江 竜介 先生  
【参加者】19名(学生 5名)

今回、地域医療および医学教育に携わる教職員が、公衆衛生を学生にどのように伝えるべきかを再考することを目的として、阿江竜介先生を講師にお招きし、ご講演をいただいた。

講演では、公衆衛生を「公衆の生命・生活・生きる権利を守る理念」と位置づけ、保健・医療・福祉・介護はその理念を実現するための手段であることを歴史的背景とともに話された。また、我が国における保健所制度の成立と変遷を通して、社会状況や疾病構造の変化に応じて公衆衛生の役割がどのように変化してきたのか、具体的に解説された。

参加者からは、これまで断片的に教授してきた内容を体系的に整理する視点を得たとの声が多く聞かれ、教育内容の見直しをする上で、非常に有意義な機会となった。

## 令和7年度 感染症セミナー

令和8年1月19日(月)



### 感染症診療の原則

【講師】青木 真 先生  
【主催】島根大学医学部附属病院 感染制御部  
【共催】島根大学医学部 地域医療支援学講座

先生は感染症学の第一線で長年にわたり臨床および教育に携わってこられた。著書の『レジデントのための感染症診療マニュアル』(医学書院)は、レジデントや若手医師にとって感染症診療の標準的教科書として広く用いられている。

今回の講演では、感染症診療を体系的に捉えるための枠組みとして、「臓器・解剖」「原因微生物」「感染症治療薬」「感染症の趨勢および治療効果の判定」という4つの軸が提示された。これらの軸をもとに、症状や検査結果をどのように整理し、診断・治療へと結びつけていくのかについて、豊富な臨床経験に基づく具体的な症例を交えながら解説がなされた。

院長と卒業生が語る

奥出雲で生き、奥出雲で創る  
地域医療の未来

町立奥出雲病院

〒699-1511  
島根県仁多郡奥出雲町  
三成 1622-1  
電話代表 0854-54-1122  
診療予約 0854-54-2700



町立奥出雲病院  
院長  
鈴木 賢二 先生

『未来の地域医療を一緒に創ってゆきましょう!』

町立奥出雲病院は、松江・出雲から車で1時間弱の中山間地にある町内で唯一の病院です。奥出雲町は神話のふるさと。スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治し、天叢雲剣を手にした伝説の地です。

当院の大きな特徴は、総合診療科と臓器別専門科(内科、外科、整形外科)が密接に連携し、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供している点です。専門医も総合診療的な視点を持ち、総合診療医も専門医と協力して高度な治療を行う体制が整っています。

また、地域に根ざした病院として、単なる病気の治療にとどまらず、患者さんの生活や人生そのものに寄り添う医療を実践しています。おじいちゃんを看取り、そのお子さんを手術し、お孫さんの怪我を外来で治療する、といった三世代にわたる関わりを持つことも珍しくありません。

今は医療の変革期であり、私たち自身の医療モデルを築き上げていく必要があります。当院では、「地域の医療を自ら作り上げる」という貴重な体験ができます。患者さんと直接向き合いながら、一緒に地域医療の未来を創っていきませんか。



町立奥出雲病院  
外科副部長、副診療部長  
内田 有紀 先生

『地元で、地域で、外科医として働くこと』

島大32期生の内田です。地域枠推薦の2期生で、消化器・総合外科に入局後、県内の様々な病院で勤務させていただき、2024年4月から地元の奥出雲で勤務しています。自分を小さい頃から知っている方々や、両親の知り合い、友人の家族など、身近な人に医療を提供することは、プレッシャーにもなりますが、大切なやりがいであると思っています。

奥出雲に戻るまでは、緊急手術や長時間の手術など「外科らしい」仕事为主でしたが、現在は手術だけでなく、外科的な処置や救急外来

での内科的対応、抗がん剤治療など「地域の外科医」として幅広い分野で貢献できるよう励んでいます。

また奥出雲病院では、総合診療医と専門医が密に協力して診療を行っており、同じ医局でお互いに相談しやすく、これからの地域医療の一つの形だと思っています。秋の虫が多い時期や、冬の雪が多い時期はお勧めしにくいですが、奥出雲での地域医療に興味のある方は、是非一度見に来てください。

『今後の予定』

キャリアセミナー

令和8年4月15日(水)  
講師:真子 絢子 先生  
島根大学医学部 小児外科 助教

令和8年5月予定  
講師:伊藤 修司 先生  
島根大学医学部 整形外科 助教

令和8年6月予定  
講師:本岡 明浩 先生  
島根大学医学部 麻酔科 助教

地域医療セミナー

令和8年4月28日(火)  
講師:上野 伸行 先生  
島根県済生会江津総合病院 総合診療科部長

令和8年5月21日(木)  
講師:高梨 俊洋 先生  
隠岐の島町 高梨医院 院長

新入生説明会・意見交換会

令和8年4月2日(木)18:00~19:30

第1回しまね総合診療の集い

令和8年4月予定

地域枠等特別選抜枠  
1年生キャリアガイダンス

令和8年5月15日(金)17:00~18:00

令和8年度第1回高校生向け  
地域医療セミナー

令和8年6月27日(土)13:00~15:00

第1回えんネット交流会

令和8年7月予定

編集後記

桜の便りとともに、新しい年度が始まりました。

本号の表紙には、希望の光を思わせる黄色を背景に、多様な花束をあしらっています。そこには、さまざまな立場の人々の思いや役割が重なり合い、地域医療を支えている姿を表しています。そして、その地域医療を未来へつなぐ人材の育成が、私たちの役割です。新入生を迎え、それぞれの場所で堂々と光を放てるよう支援を続けてまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

島根大学医学部  
地域医療支援学講座  
ホームページはこちらから →

